

連載

病理医の つぶやき



がんの診断に欠かせない病理診断を病理医の先生が解説

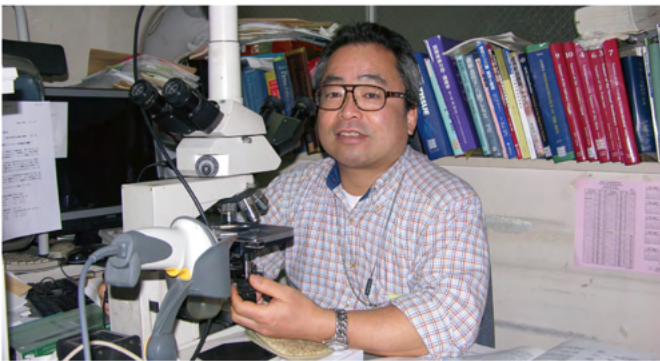
第一回／病理医のお仕事

JA尾道総合病院 病理診断科 米原 修治



『フラジャイル』の続編が延期になったという。『フラジャイル』は草水敏による漫画『フラジャイル病理医岸京一郎の所見』が、2016年にテレビドラマ化された番組です。TOKIOの長瀬智也演じる病理医岸京一郎は優秀だが、偏屈で傲慢な性格で、患者に真剣に向き合わない臨床医とは「あなたが医師でいるかぎり、僕の言葉は絶対だ」と言って喧嘩します。『フラジャイル』のおかげで、病理医が知られるようになり喜ばしい反面、病理医が、長瀬智也みたいにカッコイイ医者ばかりだと誤解されると困るなあと、『釣りバカ日誌』の西田敏行似の、ポッコリ出た小生のお腹をみながら、複雑な気持ちになります。

病理医が日常行っている業務には、病理解剖、外科病理、細胞病理があります。➤



米原先生

病理解剖は死体解剖保存法に基づいて行い、診断や治療が適切に行われたか検証して、医療監査としての役割を担います。

外科病理には生検組織診断、術中迅速組織診断、手術摘出臓器の診断があります。生体から切り取られた組織や臓器は、すぐに自己融解を始めるため、速やかにホルマリン溶液で固定し、パラフィンに埋めて、5ミクロンの厚さに薄切して、ヘマトキシリン・エオジン(HE)染色標本を作製し、顕微鏡で観察します。術中迅速組織診断では、手術中にリンパ節や断端の癌細胞の有無を判定して、切除範囲の決定に関与します。短時間で標本を作製するため、組織をクライオスタット(極低温冷却装置)で凍らせて、薄切して、固定し、染色を行います。通常10分程度で標本ができあがります。

細胞病理には子宮頸部や尿の剥離細胞診、甲状腺や乳腺、超音波内視鏡を利用した膵臓腫瘍や縦隔リンパ節の穿刺吸引細胞診などがあります。ガラスに塗抹した細胞を固定し、パバニコロウ(Pap)染色を行い、顕微鏡で観察します。細胞検査士が指摘した異常細胞を病理医が判定し、細胞診断を行います。

病理医の仕事は、治療方針の決定に直接影響するため、責任が重く、それだけに、やりがいがあります。

私たちの活動にご協力ください

賛助会員(個人・団体)を 随時募集しています

<http://www.jacr.info/>

会費

個人 … 年間 5,000円
団体 … 年間 50,000円(1口)

- 寄付金も受け付けています
- 入会のお申込みや寄付等のお問い合わせはウェブサイトの「お問合せ」よりお知らせください

